

第5項 生活道路における安全確保

第9次交通安全基本計画 「今後の道路交通安全対策を考える視点」

3 生活道路及び幹線道路における安全確保

車道幅員 5.5メートル未満の道路における交通死亡事故件数の推移をみると、全死亡事故件数の減少傾向と比較して緩やかな減少となっており、全死亡事故件数に占める割合は増加傾向にある。また、歩行者・自転車利用者の死者数、死傷者数の割合も高い水準で推移している。このような状況を踏まえると、今後は生活道路において自動車の速度抑制を図るための道路交通環境の整備、交通指導取締りの強化、安全な走行の普及等の対策を講じるとともに、幹線道路を走行すべき自動車が生活道路へ流入することを防止するための幹線道路における交通安全対策及び交通流の円滑化を推進するなど、生活道路における交通の安全を確保するための対策を総合的なまちづくりの中で一層推進する必要がある。このためには、地域住民の主体的な参加と取組が不可欠であり、対策の検討や関係者間での合意形成において中心的な役割を果たす人材の育成も市町村においては重要な課題となる。

「生活道路における安全確保」について、施策群としての全体評価、及び下記の重点施策・新規施策を対象とした施策別評価を実施する。

評価対象重点施策及び新規施策

生活道路等における人優先の安全・安心な歩行空間の整備（1（1））

- ・生活道路における交通安全対策の推進（1（1）ア）
- ・通学路等の歩道整備等の推進（1（1）イ）
- ・高齢者、障害者等の安全に資する歩行空間等の整備（1（1）ウ）

自転車利用環境の総合的整備（1（5））

道路交通情報の充実（1（10））

参加・体験・実践型の活動の推進（2（1）カ，（2），（3）ア，イ，オ，（5））

高齢者に対する交通安全教育の推進（2（1）カ）

反射材用品の普及促進（2（3）オ）

(1) 全体評価（最終アウトカム指標）

【考え方】

生活道路における交通安全を図る施策の推進により、生活道路における死亡事故・死傷事故件数の減少が図られると考えられる。

また、施策の効果を詳細に評価するため、生活道路における事故類型別の事故件数の変化を把握する。

なお、ここでは車道幅員 5.5m 未満の道路を対象として事故件数等を把握する。

【評価】

生活道路における事故件数は、死傷は減少傾向であるものの、死亡は平成 24・25 年に増加しており、幹線道路と比較して事故の減少割合が低い。

事故類型別の死傷事故件数を見ると、生活道路では出会い頭事故が 4 割を超え、もっとも多い。一方で、減少割合で見ると出会い頭事故を含む車両相互の事故は平成 22 年から約 16%減少しているが、人対車両は 12%の減少にとどまっている。

生活道路対策については、事故の詳細な発生状況を把握しながら、より一層対策を推進する必要があると考えられる。

【評価指標】

・生活道路における事故類型別の交通事故件数

事故類型別の死傷事故件数を見ると、生活道路では車両相互事故が8割を超え、人対車両事故は約1割となっている。

車両相互の事故では、出会い頭事故が半数を超え、最も多い。人対車両の事故では、その他横断中が最も多いが、他の事故類型の事故も同程度発生している。車両単独の事故では、工作物、防護柵、電柱・標識等の道路上の施設との衝突事故が約4割を占める。

減少割合で見ると出会い頭事故を含む車両相互の事故は平成22年から16%減少しているが、人対車両の事故は12%の減少にとどまっている。

・生活道路における交通事故の死亡事故・死傷事故件数

生活道路における事故件数は、死傷は減少傾向で、平成22年から16%減少しているが、死亡は平成24・25年に増加している。

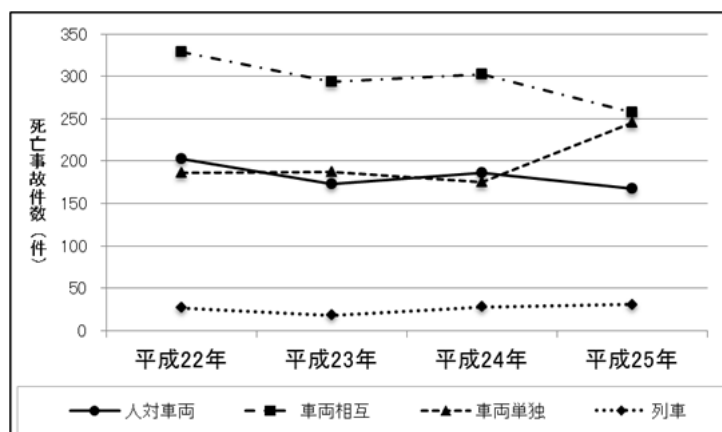
・生活道路における道路延長あたり、走行キロあたりの死亡事故・死傷事故件数

生活道路における道路延長あたりの事故件数は、死傷事故は、減少傾向となっているが、死亡事故は平成24・25年に増加している。また、走行キロあたりの事故件数をみると、死亡・死傷ともに減少傾向となっている。

表 生活道路における事故類型別の死亡事故件数

事故類型	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
人対車両	203	173	186	168
対背面通行中	37	36	40	33
横断歩道横断中	27	28	40	24
その他横断中	73	48	58	54
その他	66	61	48	57
車両相互	329	294	302	257
正面衝突	31	25	26	28
追突	14	16	13	15
出会い頭	248	219	231	181
右折時	17	21	18	8
左折時	7	0	1	5
その他	12	13	13	20
車両単独	186	187	175	246
電柱・標識	27	31	21	23
防護柵等	14	26	18	20
その他工作物	37	24	31	50
駐車車両	4	4	4	5
転倒	12	8	8	19
その他	92	94	93	129
列車	27	18	28	31
合計	745	672	691	702

※幅員5.5m未満の道路を生活道路として集計。



出典：ITARDA データ